

大台ヶ原の自然再生にかかる合意形成手法の検討

(1) 合意形成の必要性

大台ヶ原では登山、写真撮影、風景鑑賞など様々な利用がなされている。また、その自然環境を守るため、地方公共団体、NPO、ボランティアの活発な活動がみられる。このため、大台ヶ原の自然再生を進めていくためには、広く国民の意見を反映するとともに、関係する多様な主体の参画による合意形成が必要である。

(2) 合意形成手法の比較検討

合意形成の手法として一般的に用いられる①既存資料に基づく社会動向調査（世論調査など）、②アンケート調査、③パネルディスカッション、④ワークショップの4つの手法について検討する。

表1 大台ヶ原における合意形成手法の検討

	既存資料に基づく社会動向調査	アンケート調査	パネルディスカッション	ワークショップ
形式	一方向	一方向	双方向(小)	双方向(大)
合意の範囲	大	大～小	中	小
参加の範囲	国民一般	対象を自由に設定可能	パネリストとなる専門家や関係者と一般参加者	一般には直接利害関係のある地元住民等
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・国民一般の意向が把握できる ・一方向の意向把握である ・合意形成の基礎的データとなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査者が設定したテーマ・対象者の意向を把握できる ・一方向の意向把握である ・合意形成に向けて、やや詳細なデータを把握できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な立場からの意見を踏まえた議論が期待できる。 ・フロアーからの意見聴取が少なくなりがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対等な関係で作った集団が共同作業を通じて前向きな意欲を引き出す。 ・説得力の高い結果を得るには、十分な準備と時間が必要である

これらの手法はそれぞれに特徴を持っているため、既存の社会動向調査の把握、アンケート調査による意向把握とあわせて、双方向の議論を実施し、その成果を踏まえて、引き続き合意形成手法の検討を図るものとする。

なお、今年度については自然再生に向けた合意形成のモデルケースとしてパネルディスカッションを行う。

今年度実施するパネルディスカッション(案)

■自然再生の重要性に関わる情報の発信

- 専門家による自然再生の意義についての情報提供（専門家による基調講演）
- 大台ヶ原の自然環境の美しさをアピール（写真家によるスライドショー）

■利用の観点からみた大台ヶ原の自然環境の再生に向けた共通認識の醸成

- 専門家、関係者、利用者等による意見交換（パネルディスカッション）